

台風第26号に対する農作物等管理技術対策について

令和8年9月28日

埼玉県農林部

台風第26号は9月28日（月）現在、日本の南を北上しており、10月1日（木）に関東地方に接近する見込みです。本州の南に進んだ場合は停滞する秋雨前線の活動が活発になり、影響が広範囲に及ぶ可能性があります。

そこで、農作物等管理技術対策資料を作成しましたので、参考としてください。今後の台風の進路等の気象情報に十分注意し、早めの対応をお願いします。

（**前**：事前対策、**後**：事後対策）

また、高温・高湿下での農作業は、熱中症を引き起こしやすいので注意してください。

畑作、水田共通事項

- 前** 1 安全第一とし、台風接近中に河川や用水路が増水している場合には、ほ場の巡回は避け、水位が下がった段階で被害状況を確認する。
- 2 畑作ほ場では、排水路や暗きよの点検、必要に応じて排水溝の整備を行い、ほ場の停滞水に備える。
- 3 事前準備は台風接近前に終え、通過中は屋外での作業やほ場確認を避ける。
- 後** 1 安全を確認できるまでは増水した河川や用排水路に近づいたり、管理作業を行わない。
- 2 通過後、天候が安定したら、病虫害の発生を防ぐため薬剤防除を行う。

ハウス共通事項

- 前** 1 フィルムの破れ、支柱、支線、ターンバックルなどを点検・補修し、必要に応じて筋交いを入れるなど補強する。風で飛散する物がないよう周辺を整理しておく。
- 2 いちご苗等で天井部のみを被覆するハウスは、入念に点検し対策を講ずる。
- 3 出入り口、天窓、サイドをしっかりと固定し、隙間から風の吹込みを防ぐ。
- 4 大雨により施設内の浸水が心配される場合は、排水路の整備や出入口に土のうを設置する。
- 5 停電、浸水による漏電等が想定されるので、不必要な電源は遮断しておく。
- 6 換気扇をまわしてハウス内部を負圧にし、被覆材のバタつきを防ぐ。

- 後 1 台風通過後のフェーン現象により急激な温度上昇や乾いた熱風が吹く場合は、遮光資材やミストの利用、こまめな灌水によりハウス内の作物がダメージを受けないようにする。

水 稲

- 前 1 台風接近時には強風による穂ずれ、葉の損傷、倒伏等を防ぐため、できるだけ深水管理を行う。
- 2 刈取適期に達しているほ場では、速やかな収穫に努める。
- 3 調製後袋詰めした製品は、雨漏りや吹込み、浸水による被害を回避できる場所に保管する。
- 4 収穫後の稲わらがほ場から流出すると、用排水施設の機能に支障をきたすため、すき込み等の流出防止対策を講じる。

- 後 1 冠水した場合は、速やかに排水を行う。
- 2 ただし、台風通過後の乾いた強風をとまなう場合は、風が収まるまでは湛水状態を保つ。
- 3 倒伏した場合、穂発芽の発生が懸念されるため、速やかに排水しほ場の乾燥を早める。また、倒伏により熟期ムラを生じた場合は、できる限り刈り分けを行い品質の低下を防ぐ。
- 4 特定外来生物「ナガエツルノゲイトウ」が発生している河川から取水している地域では、水利施設等に溜まったゴミの中に「ナガエツルノゲイトウ」の切断茎が混入している恐れがあるので、拡散しないよう適切に処理する。

大 豆

- 前 1 明きょや暗きょを点検し、必要に応じて排水路の整備を行い、速やかに排水できるように努める。
- 後 1 浸冠水したほ場では、滞水による根腐れを防ぐため、速やかに排水する。
- 2 排水が悪いほ場では、立枯性病害（茎疫病・黒根腐病等）を対象とした薬剤防除を行う。

野 菜

◎露地なす

- 前 1 強風に備えて、支柱や枝の誘引等について点検・補強する。
- 後 1 停滞水を速やかに排水するとともに樹勢回復のため液肥の散布を行う。
2 台風通過後は、うどんこ病、褐色腐敗病等が発生しやすいため、速やかに薬剤防除を行う。
3 風雨でキズなどが発生し商品価値が低下する果実は早く摘果し、草勢の回復を図る。

◎いちご

- 前 ハウス共通事項を参照。
- 後 1 育苗ほへの浸冠水は炭疽病や疫病の発生を助長するため、速やかな排水対策を行う。
2 遮光資材を適宜活用して、台風通過後の急激な温度上昇・乾燥を回避する。
3 風雨による損傷や泥はねにより炭疽病の発生拡大が懸念されるため、天候が回復次第、薬剤防除を行う。
4 土耕栽培で定植前の本ぼが浸水した場合は、無理に畝立てをせず、排水路の整備や水中ポンプを利用して排水を促す。その後、適正な土壌水分になってから畝立てを行い、定植が遅れる苗は追肥を行い苗の草勢維持に努める。

◎きゅうり

- 前 ハウス共通事項を参照。
- 後 1 台風通過中は開口部全閉によりハウス内の湿度が高まるため、病害の発生に注意し、天候が回復次第、薬剤防除を行う。
2 換気開始時に急激な温度上昇や乾いた熱風が吹く場合は、葉や生長点の焼けが発生するため、遮光資材やミストを積極的に活用し、ミストがない場合は灌水頻度を増やし被害を軽減する。

◎ねぎ

- 前 1 ほ場に水が停滞しないように明きょや排水路の整備・確認を行う。
2 土寄せができる状態のものは、倒伏防止のため事前に土寄せを行う。
ただしほ場が低く、明きょ・排水路の整備が間に合わない場合は、無理に土寄せはしない。

- 後 1 台風通過後の停滞水の温度上昇は、根腐れ及び軟腐病等の発病を助長するため、速やかに排水する。
- 2 葉の損傷等が見られた場合には、速やかに薬剤防除を行う。
- 3 収穫期のほ場では、速やかに収穫・出荷を行う。その際、病株の混入は商品性を著しく損なうため、厳選に努める。

◎ブロッコリー、キャベツ、はくさい

- 前 1 防虫ネットや寒冷紗等で被覆している場合は、強風にあおられないようトンネルを点検・補強し、被覆資材のすそは確実に土中に埋める。
- 後 1 軟腐病、黒腐病、黒すす病等の発生が懸念されるため、天候が回復次第、薬剤防除を行う。
- 2 ほ場に入れる状況になったら、早めに中耕を行い、土壌の通気性を確保する。
- 3 風雨により倒伏した株は、株元に軽く土寄せを行って倒伏や株のねじれを修正する。

◎えだまめ

- 前 1 倒伏防止のため土寄せを行う。
- 後 1 茎葉の損傷等が見られた場合には、天候が回復次第、薬剤防除を行う。

◎さといも

- 後 1 疫病の感染が確認される場合や茎葉が損傷した場合は、天候が回復次第、薬剤防除を行う。

◎にんじん、だいこん、こまつななど軟弱野菜

- 後 1 葉の損傷等が見られた場合には、速やかに薬剤防除を行う。

果 樹

- 前 1 収穫できる果実は事前に収穫する。
- 2 棚や支柱、網等を点検・補強し、樹体や棚の揺れを少なくする。
- 3 苗木は、主幹部の株元にビニールを巻くなどし、土はねを防ぐ。
- 後 1 落下した果実は速やかにほ場外へ搬出する。
- 2 葉・枝の損傷が発生した場合は、なしでは黒星病、疫病、胴枯病、ぶどうでは晚腐病の発生が懸念されるため、薬剤防除を行う。

花植木

- 前 1 排水対策を行うとともに、フラワーネット等の点検・補強を行う。
- 後 1 天候回復後、強光による日焼けを防止するため苗等は寒冷紗等で遮光する。
- 2 倒伏した株は、起こして株元を軽く押さえ、噴霧器等で付着した土を洗い流すよう薬剤散布を行い、病害の発生を予防する。
- 3 破損した茎葉は病害の発生源となるため、速やかにほ場外へ搬出する。
- 4 宿根アスター等の電照栽培では、台風通過後、速やかに電照設備を点検する。

茶

- 前 1 被覆棚の転倒等がないように点検を実施する。被覆棚については被覆資材をしっかり縛るなどの対策をする。
- 2 幼木園では、茶株の揺れやマルチのばたつき防止のため、株元やマルチ資材への土寄せを行う。
- 3 製茶工場内に雨水が侵入しないように煙突、屋根、雨どい、窓等十分に点検・整備・補強をする。
- 4 防霜ファンの支柱・支線等を点検し、支柱の転倒を防ぐ。
- 後 1 強風により葉ずれや葉傷みがあった場合には、殺菌剤を散布し病害の発生を予防する。
- 2 幼木園において風により幹が回されたものは、早めに土寄せや敷き草を行い、地際部や根を保護する。
- 3 茶工場や防霜ファン、被覆棚、茶園の法面等を点検し、必要に応じて修復を行う。

飼料作物

- 後 1 土砂の混入はサイレージ発酵の品質低下を招くため、収穫時には混入しないよう刈高を調整する。

◎農薬はラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分確認の上、最終有効年月までに使用してください。

◎農薬の使用に際しては、以下のホームページで御確認ください。

・農林水産省 農薬登録情報提供システム

<https://pesticide.maff.go.jp/>